

文化審議会 第 8 期文化政策部会
他のワーキンググループの審議における関連指摘事項

舞台芸術ワーキンググループ

- 地方の芸術拠点の財政状況は非常に厳しい。指定管理者制度の導入でさらに困難を来たしている。
- 未来への可能性があふれている子どもの時期に、優れた素晴らしいものをたくさん鑑賞する機会を提供するべきである。
- 新進芸術家の海外派遣について、より年齢層の低い芸術家の派遣を検討するべきである。

メディア芸術・映画ワーキンググループ

- 日本の浮世絵が海外に流出し、国内にあまり残っていないという状況があるが、これと同様のことが、アニメのセル画でも起こっている。歴史の過ちを繰り返さず、貴重な作品・資料等のアーカイブを勧めるべきである。このような網羅的な収集・保存は、公的機関にしか不可能である。
- データベース（情報の収集）とアーカイブ（作品の保存）は異なるものであるため、分けて考える必要がある。まず、何がどこにあるかを把握する必要がある、データベースの構築から始めるべきである。
- アーカイブ（作品の保存）を行うということになれば、膨大な量となるので、これらを整理・保存するには、多くのスタッフと専門性、保存するための場所が必要であり、大変な作業になる。
- アーカイブは分野におけるメディアの性質の違いを踏まえて、それぞれの分野ごとに方策等を検討するべきである。
- ゲームに関しては、国立国会図書館における納本制度のように、ソフトからハードまですべてをメーカーから寄贈してもらうべきである。
- マンガの原画は、日本のマンガの歴史を示す貴重な資料であり、このままでは散逸・劣化していつてしまう。これらの貴重な資料についてアーカイブの必要がある。
- 映画のデジタル保存には、映画を一本製作できるほどのコストがかかる。デジタルでどのように保存するのかということ調査研究していくべきである。

くらしの文化ワーキンググループ

- 京都服飾文化研究財団によるジャポニズム文化展を開催した時、海外では国立の美術館が行えたが日本では断られることがあった。日本では「ファッション」という語感のせいもあってか、文化として捉えられていない節がある。
- 経済的インセンティブや文化的インセンティブ、すなわち質の高い生活ができるとか、生活コストが安くてすむような仕組みを導入し、クリエイティブ人材の集積を促す必要がある。一定期間、国内外の芸術家が滞在して制作活動等を行うアーティスト・イン・レジデンスの環境整備も有効。それにより、芸術家、地域住民、観光客が一体となって活発な創造都市づくりを担うことができる。
- 学校の中に何でも取り込む発想からの脱却が必要。やはり学校から連れ出し、本物を見せることが重要である。
- オーストラリアの国立博物館では、過去から現代の「くらし」を並べて展示し、今の「くらしの文化」をよく理解できれば、伝統や歴史について考えることもできるようになるという発想を採っている。先住民の「くらしの文化」も展示しているが、時代の変化に適用させることによって広く長く残る伝統もある。また、オーストラリアでは博物館に来られない人のためにウェブサイトでの情報発信にも力を入れている。
- アーカイブは無差別に収集しておくことに価値があるので、なるべく無差別にデジタル化して保存しておくことは必要であろう。現物保存とともに、技術の進歩に伴い再現性が向上しているデジタル・アーカイブの研究者の養成も重要。
- アーカイブについては、従前より細々と取り組んでいるところであるが、それらの情報を集約、全体像を把握して意識的な保存を図っていく何らかの策を模索する必要がある。データベース化に当たっては、統一的なデータ基準が必要。
- 世界でも稀有な和洋折衷による日本の生活様式の記録はある程度必要であろう。
- 洋服のアーカイブも必要ではないか。その際、現物でなくとも映像でのアーカイブも考えられる。着物も然り、歴史的価値のあるものばかり大事にされるが、もう少し生活文化に根差したのものにも配慮すべき。
- アメリカでは小規模な町でも服飾博物館があったりする。日本でも高級品は美術館・博物館が所蔵しているが、それに加えて生活に根差したファッションを原型保存して後世に遺していくことにも意義がある。
- ファッションに加えて、プロダクト・デザインもアーカイブとして遺していくことが必要ではないか。

文化財ワーキンググループ

- 文化財に親しみを持ってもらうためには、美術館・博物館等における展示機能の充実はもとより、人々の注目を獲得するような展示の企画力の充実も必要ではないか。
- 博物館等における文化財の公開・活用については、学校教育との連携や児童生徒等と文化財をつなぐ人材の確保、育成やその仕組みづくりについて検討が必要ではないか。
- 美術館、博物館の所蔵する魅力ある豊富な文化財を広く国民に情報提供を行うため、美術館・博物館所蔵の総合データベースの構築が必要ではないか。
- 文化財を活用した地域づくりを推進する際には、活動の核となるアートマネジメントのリーダーのような役割を果たす人が重要であり、そのための支援も必要ではないか。
- 平常展で如何に一般の人々に文化財に注目してもらえるか、その工夫と企画力が今後大きく問われる課題である。
- 文化財の公開・活用という点では、もっと小中高生の無料制度を活用し、学校教育との連携をもっと具体化・制度化していくべきである。
- 美術館博物館所蔵の総合データベースの作成は急務と思われる、その意味では、「文化遺産オンライン」の完成が急がれる。指定品等は公開制限があるため制約は多いが、活用できる文化財も多いはずで、データベースが完成すれば相互利用が活発になり、それぞれの地域の美術館博物館の企画性が高まってくることが期待できる。